



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
平成27年5月号 平成27年度 京都市消防局今年度の方針

平成27年5月号 平成27年度 京都市消防局今年度の方針

ページ番号181234

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



2015年5月1日

平成27年度 京都市消防局今年度の方針

消防局次長 下遠 秀樹

◆ 総務部 ◆◆

総務部長 山内 博貴

◆ 予防部 ◆◆

予防部長 立入 正浩

◆ 安全救急部 ◆◆

安全救急部長 西川 幸夫

◆ 警防部 ◆◆

警防部長 岡口 直人

◆ 消防学校 ◆◆

消防学校長 田井 英紀

平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
電話:075-682-0119
ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
[平成27年5月号](#) [平成27年度](#) [京都市消防局今年度の方針](#) [消防局](#) [今年度の方針](#)

消防局 今年度の方針

ページ番号181832

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



2015年4月30日



京都消防の使命

消防職員、消防団員が市民とのパートナーシップをより一層強め、市民や地域と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」と、あらゆる災害現場に的確、果敢に立ち向かうとともに、消防法令違反にき然と対処する使命感のある「力強い消防」により、「はばたけ未来へ！京(みやこ)プラン(京都市基本計画)」【平成23年度～32年度】に掲げる「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」の実現を目指します。

平成27年度は、出火防止・焼死者防止対策、新消防指令システムの本格運用による災害対応力の強化、自主防災会における防災行動マニュアルの策定や消防団の入団促進など地域防災力の向上をはじめとした取組について、全職員の総力を挙げて実施してまいります。

その一方で、より質の高い成果を挙げるため、個々の職員のスキルアップ、災害現場での安全管理、交通事故や不祥事の防止、将来を見据えた業務の効率化を並行して進めてまいります。

また、市民の皆様から更なる信頼を頂けるよう、職員一人一人が公務内外において、公務員としての自覚を持ち、コンプライアンス(法令順守)を徹底するよう、引き続き努めてまいります。

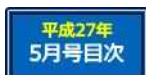


将来を見据えたスクラップ&スクラップ…&ビルド

若手・中堅・ベテラン各々のスキルアップ

災害現場での安全管理、交通事故・不祥事防止

他局・区役所等との連携、局と署の情報共有



お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2015 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
[平成27年5月号](#) [平成27年度](#) [京都市消防局今年度の方針](#) [総務部](#) [今年度の方針](#) [変革の潮目を意識して](#)

総務部 今年度の方針 変革の潮目を意識して

ページ番号181942

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



2015年4月30日



広大な海も干満により流れができ、波が沸き立つ。その潮の変化で生まれる渦が潮目であります。

阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から4年が経過しました。防火・防災を推進し、安心・安全な京都を実現するには、ひと度も立ち止まっている余裕はありません。思考停止は組織の機能停止に陥ります。また、少子高齢化や地域コミュニティの低下など、逆流する動きもあります。反転攻勢して、流れを元に戻し、満ち足りた潮の流れにしていく必要があります。釣りをしていると、必ず潮目を発見することがあります。漫然と施策を執行するのではなく、潮目は何かを意識することが大切です。

総務部から、今年度の潮目となる二つのポイントを説明します。

一つ目は消防団の入団促進です。平成25年12月、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が成立し、平成27年度からは消防団員への報酬制度が導入されました。消防団員減少への歯止めを掛ける、併せて学生等の若年層、女性の団員を確保することが重要な課題であり、まさに鳴門の渦潮のような大きな潮目の年であります。

二つ目は事故なし、不祥事なしの達成です。

昨年度は、災害現場で負傷した職員が、長い闘病の末に殉職されました。御家族と共に哀悼の意を申し上げます。災害現場の殉職者は、昭和36年の安井山火災以来であります。初任科教育で安井山に登り、慰霊塔に参拝することで、半世紀以上前の教訓を学ぶことができますが、今回のことも京都消防の教訓として、これからも職員に引き継いでいかなければなりません。

昨年度は、京都市では懲戒処分10件の職員不祥事が発生しました。市役所全体で不祥事の渦が乱れましたが、その大きな不祥事のページに消防が名を連ねることはありませんでした。今年度も安全を第一に、ノートラブル、「信頼の京都消防」を目指して安全な流れで前へ進んでいかなければなりません。

やるべき事を実践しつつ、特にこの二つの潮目を意識して、取り組んでいきましょう。

平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
電話:075-682-0119
ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
[平成27年5月号](#) [平成27年度](#) [京都市消防局今年度の方針](#)
[予防部](#) [今年度の方針](#) [市民の安心と安全を守る予防行政の推進](#)

予防部 今年度の方針 市民の安心と安全を守る予防行政の推進

ページ番号181927

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます [ツイート](#) [シェア](#) 2015年4月30日

予防部 今年度の方針

市民の安心と安全を守る予防行政の推進



予防部長 立入 正浩

焼死者防止対策の推進

昨年、本市では、前年より9件少ない236件の火災が発生し、火災による死者(自損等を除く。)は前年より1人少ない13人となりました。ここ10年間を見ると、焼死者の90%以上が住宅火災により発生しており、そのうち約65%が高齢者となっております。焼死者を減らすためには、住宅からの火災を予防するとともに、特に火災の犠牲となりやすい高齢者等を対象とした、きめ細やかな焼死者防止対策を推進する必要があります。

そこで、今年度の重点事業として、過去の焼死者の発生状況を基に策定した市民の実践事項「京都市の焼死者防止 実践ファイブ！」を活用し、市民と接するあらゆる機会を通じて焼死者防止を訴えます。また、高齢者世帯に対する防火安全指導をはじめ、病院の待合室やデイサービスなど的高齢者が集まる場所での防火指導、地域包括支援センター等との連携による防火指導など、工夫を凝らした効果的な指導を実施します。



放火防止対策の推進

昨年、本市では58件の放火火災が発生しました。年間の放火火災件数は、126件を記録した平成10年のピーク時に比べると半減しているものの、放火(疑い含む。)は、昭和51年以降39年連続して火災原因の1位となっており、積極的な放火防止対策に取り組む必要があります。そこで、放火火災について詳細な分析を行い、放火火災の傾向に応じた啓発やパトロール等の対策を講じるなど、事前対策の観点を盛り込んだ放火防止対策を推進します。

さらに、「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」の中で、区役所・警察・事業所・地域との連携を強化し、防犯カメラやセンサーライトの設置、地域連携の警戒パトロールの実施など、ハード・ソフト両面での放火防止対策も含めた、地域の安心安全のための取組を進めます。

また、放火防止対策を職員の職務研究における年間特定テーマに設定するなど、新たな手法についての研究を行います。

事業所防火対策の推進

○ 平成24年5月に広島県福山市において死者7名、負傷者3名を伴うホテル火災が発生し、平成25年2月には長崎県長崎市において死者5名、負傷者7名を伴うグループホーム火災が発生したことを受けて、消防法施行令等の一部改正が行われました。

この改正により、平成27年4月1日から旅館・ホテル等や病院・有床診療所等、老人デイサービスセンターについては自動火災報知設備の設置、養護老人ホーム、グループホーム等についてはスプリンクラー設備の設置が小規模なものまで拡大されます。

平成30年3月31日までの経過措置期間内に確実に設置されるよう週及指導を行い、これら既存の防火対象物について安全性の向上に努めます。

消防法施行令の改正内容(施行日:平成27年4月1日,経過措置期限:平成30年3月31日)

防火対象物の用途	上段:新たに設置義務が生じる消防用設備等 下段:対象となる防火対象物
旅館,ホテル等	自動火災報知設備 延べ面積300㎡以上 → 全て
病院,診療所等	自動火災報知設備 延べ面積300㎡以上 → 入院させるものは全て
養護老人ホーム,グループホーム等	火災通報装置 手動で起動 → 自動火災報知設備との連動を義務化 スプリンクラー設備 延べ面積275㎡以上 → 原則,全て
老人デイサービスセンター,児童養護施設等	自動火災報知設備 延べ面積300㎡以上 → 入所・宿泊させるものは全て

○ 消防局においては、毎年度、防火対象物の危険度や違反状況等により優先順位をつけて査察を行い、違反対象物の違反は正に重点的に取り組んできたところですが、消防署に届け出ることなく用途変更や増改築等が行われたことにより、消防法令上の義務が生じたにもかかわらず、防火管理者がいないことや消防用設備等が設置されていないこと等の消防法令違反が生じているものが見受けられます。

そこで、今年度は、長期間査察を実施していない防火対象物の立入検査を実施して、その実態把握に努めるとともに、消防法令等の違反事項を発見した場合は速やかに是正指導に着手し、指導により是正されない場合には命令等の違反処理を実施して、迅速かつ確かな違反是正を図らせることにより、防火安全性の向上を図ります。

事業所帰宅困難者対策の推進

大地震などの大規模災害が発生した際、本市における帰宅困難者は37万人にも上ることが想定されています。本市では、事業所での帰宅困難者対策を推進するために、業態ごとの特徴を踏まえた「京都市帰宅困難者対策指針」を平成25年度に策定し、同指針に基づく事業所ごとの対応計画の策定を推進しています。今年度も、市内の大規模な事業所における「事業所帰宅困難者対応計画」の策定を推進するとともに、同計画に基づく備蓄品等の準備や帰宅困難者対応訓練の実施など、事業所での帰宅困難者対策の充実に取り組みます。



お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
電話:075-682-0119
ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
[平成27年5月号](#) [平成27年度](#) [京都市消防局今年度の方針](#)
[安全救急部](#) [今年度の方針](#) [安心・安全のまち京都を実現するために](#)

安全救急部 今年度の方針 安心・安全のまち京都を実現するために

ページ番号181833

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます  ツイート  シェア 2015年4月30日

○ 救急現場活動能力の向上

救急現場における活動能力や局地的かつ短時間に多数の傷病者が発生した災害現場における対応能力の向上を図るため、傷病者への観察能力の向上を主眼とした教育や研修を実施するとともに、新たに配置された高度救急救護車を活用し、多数傷病者の発生を想定した特別救急(部隊合同)訓練を実施します。また、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与に対応した救急救命士を引き続き養成します。

○ 救急需要対策の推進

平成26年中の救急出動件数は、8万1千件を超えて5年連続で過去最多を更新し、20年前である平成6年の4万3千件と比較すると、約2倍の出動件数となっています。今後も救急需要の増加は続く予測されることから、増加傾向にある救急需要への対応策について検討を進めるとともに、救急車の適正な利用についての啓発を行います。

○ 応急手当の普及啓発と実施促進、AEDの普及啓発

平成6年度から開始した市民への救命講習の修了者は、平成27年3月末に累計で42万人を超えました。

今年度も小学5・6年生を対象とした「救命入門コース」、中学・高校生を対象とした「普通救命講習Ⅰ」や「e-ラーニングを活用した普通救命講習Ⅰ」、乳幼児の保護者や保育園・幼稚園等の職員を対象とした「普通救命講習Ⅲ」などを推進するとともに、再受講者数の増加を図るなど「いざという時に応急手当のできる人づくり」を推進します。

さらに、安心救急ネット京都と連携し、AEDの普及啓発やAEDマップへの登録勧奨を行い、その設置状況を消防局ホームページのAEDマップやスマートフォン版AEDマップに公開していくなど、積極的にAEDの普及促進を図っていきます。

○ 消防救急無線デジタル化整備

平成28年5月末が期限となっている消防救急無線のデジタル化については、昨年12月から救急隊による試験運用を開始しています。今年度は、指揮隊、救助隊及び消防隊の車両や消防署所の無線の整備を行って、消防救急無線デジタル化を完了させ、デジタル無線の本運用を開始します。

○ 焼死者防止対策の推進

本市の「はばたけ未来へ! 京プラン」では、火災による死者を半減させる数値目標を掲げています。火災の犠牲となりやすい高齢者や身体に障害のある方に対する防火安全対策は極めて重要であり、最善を尽くして大切な命を守らなければなりません。

福祉関係者と情報を共有し、強力な連携のもと、消防職員のきめ細かな防火安全指導を実施するとともに、病院の待合室やデイサービスなど高齢者が集まれる場所に積極的に出向き防火指導を実施していきます。緊急通報システムへ連動する住宅用火災警報器については、多くの奏功事例があり高齢者等の焼死者防止に有効な機器であるため、署員が各戸を訪問して連動火災警報器を設置する必要がある世帯に対して積極的に設置勧奨を行います。さらに福祉関係者を対象に、防火や防災、家庭内の救急事故防止の知識と技術を習得していただく「高齢者等のための安心アドバイザー研修」を実施し、高齢者等の大切な命を守るためのサポート体制の充実を図っていきます。

○ 自主防災組織の活動能力の向上

昨年度は、「身近な地域の市民防災行動計画」をより広域的に発展させた「防災行動マニュアル」(自主防災会単位での防災行動計画)について検討し、44のモデル学区自主防災会により検証していただきました。今年度はその結果を踏まえた「防災行動マニュアル策定のためのガイドライン」を各自主防災会に配布し、地域特性に応じた「防災行動マニュアル」の策定を推進します。

また、自主防災会及び防災指導責任者が、「自主防災会防災力チェックシート」により地域防災力を定期的に分析し、その結果を防災力向上に活用していきます。

今後、防災行動マニュアルが策定されれば、地震、水災害、土砂災害のそれぞれの災害事象に応じた防災行動が適切に実施できるかどうか、訓練等で検証し、計画、実行(訓練)、評価(検証)、改善(計画の見直し)というPDCAサイクルを繰り返し、継続的に実施することで、地域実情に応じた各防災行動マニュアルを充実させ、活動能力の向上を図っていきます。

○ 幼少年への防火・防災指導

楽しみながら防災について学ぶという新たな手法を取り入れた、幼少年向け防災イベントを、9月6日、京都市市民防災センターにおいて開催します。各消防署も防災プログラムのブースをそれぞれ担当し、幼少年への防火・防災指導の新たな手法を学びます。学んだ手法を各行政区で実施する防災訓練、防火防災イベント等で活用することで、将来の地域防災の担い手である幼少年の防火・防災教育を充実させるとともに、幼少年の保護者等、子育て世代の訓練参加を促し、更なる災害対応力の向上を図っていきます。



お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
[平成27年5月号](#) [平成27年度](#) [京都市消防局今年度の方針](#) [警防部](#) [今年度の運営方針](#) [災害対応力の強化を目指して](#)

警防部 今年度の運営方針 災害対応力の強化を目指して

ページ番号181834

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます  ツイート  シェア 2015年4月30日

警防部 今年度の方針

災害対応力の強化を目指して

警防部長 岡口 直人



阪神・淡路大震災から20年の節目を迎え、感慨深いものがありますが、その一方で、東日本大震災や一昨年の台風18号等、消防職員にとって、とりわけ、我々、京都市消防局の職員には、試練とも言える新たな課題が次々と突き付けられてきたこの20年であったような気がしております。

今後、ますますその発生確率が高まると言われる南海トラフ巨大地震や気候変動による豪雨災害等、日々の災害対応に加えて、近い将来に戦わなければならない大規模災害への対応体制を強化していくことが、今、私たちに課せられた喫緊かつ必須の課題であると、新年度を迎えるに当たって、改めて身の引き締まる思いであります。

大規模災害対応体制の強化

◆ 新消防指令システムを活用した情報処理体制の強化

昨年12月に新消防指令システムの仮運用が開始され、6月には本運用が始まります。

通常災害は基より、大規模災害に対応したシステムを導入したことで、多発、輻輳する災害にも迅速かつ的確に対応していきたいと考えております。

例えば、各署警防本部と局警防本部との情報を、指定電話等による連絡体制から、消防業務システム端末によるものへ移行することにより、署から局への一方通行であった情報を、全ての所属へ共有することが可能となり、効率的な現場活動に生かしていけると考えています。

また、各署で覚知した事案について、署所指令情報出力装置の覚知送信機能を活用することで、これまでの指定電話による連絡体制に、直接指令台へ指令要求できる体制を加え、消防指令センターでの情報トリアージの時間短縮につなげていくことも想定しています。

◆ 都市型水害対策車の導入

道路冠水や地下浸水などの都市型水害発生時に高い排水能力を発揮する車両を導入します。

一昨年の台風18号での市営地下鉄東西線御陵駅を例にとりますと、実際には約80時間掛かった排水時間が、この車両の能力をもって処理した場合、約49時間で排水が可能との試算がされています。

また、震災発生時には、当然、長距離送水車としても活用可能であります。

災害現場活動能力の向上

◆ 現場指揮支援システムを活用した現場指揮本部の機能強化

6月から本運用を開始する現場指揮支援システム(タブレット等)を活用した情報の収集・共有・集約を行い、各級指揮者及び出動部隊がより有機的に連携し、効果的な現場活動を実施します。また、昨年度に策定した消防隊等の訓練指導マニュアル(指揮隊長等編)に沿って、消防活動総合センター(以下「活動センター」という。)の施設を活用した訓練を実施することにより指揮隊の指揮能力の向上を図ります。

◆ 早期に救出・放水活動の両方に着手可能な部隊の運用

火災による被害を最小限度にするために、運用中の水槽車を有効に活用した速消戦術を更に充実させます。

救出活動と消火活動を併行して行うことを目的として、水槽車に火災救助等に必要な救助資器材を積載させ、火災による焼死者防止及び焼損面積の減少を図ります。

◆ あらゆる火災や災害を想定した消防活動能力の向上及びリスクマネジメント

水災害、震災等大規模な災害時における活動能力等の向上を図ります。

水災害対応能力の向上を図るために、活動センターに水災害対応訓練施設を新設し、水防訓練及び水難救助訓練を実施します。

大規模な地震時の活動能力の向上のため、震災街区の火災防御を想定した長距離送水訓練を実施し、活動の困難性と効果的なホース延長の検証等を実施します。

また、消防隊等の活動能力の向上のために、はしご車による放水・救出訓練の実施、消防隊等の訓練指導マニュアル(部隊長編)を作成します。

なお、全ての訓練時において、活動に対するリスクを指揮隊長は基より活動隊員の全員が認識し、そのリスクを管理することにより「安全」を担保し、「確実」、「迅速」な活動を実施していきたいと思います。

◆ 緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練

本年10月に、京都府内(宇治市、城陽市、久御山町)において緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が実施されます。

登録部隊の増隊とともに、こうした訓練機会を通じ、府内の各消防本部が共同し、災害対応能力の向上が図られることを期待します。

**お問い合わせ先**

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
[平成27年5月号](#) [平成27年度](#) [京都市消防局今年度の方針](#)
[消防学校](#) [今年度の方針](#) [信頼される消防を目指し、熱き思いを胸に](#)

消防学校 今年度の方針 信頼される消防を目指し、熱き思いを胸に

ページ番号181956

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート シェア

2015年4月30日



信頼される消防を目指し、熱き思いを胸に

平成27年度消防局運営方針を実現するための重要な鍵は、様々な取組を実行する「人」にあります。安心・安全のまちづくりの実現は「人づくり」に掛かっていると一言で言っても過言ではありません。

消防学校では、今年度、「消防職員・消防団員の成長なくして地域の安心・安全の充実はない。」との決意をもって人材育成を推進してまいります。

消防職員・消防団員教育

○ 消防職員教育の充実

消防学校を消防職員が消防人としての原点に立ち返る場所に位置付け、服務規律の徹底を図ると同時に、職員教育の充実強化に努めます。

なかでも、各職場において要となる中堅職員の養成を推進するため、専科教育の整理・統合及び教育カリキュラムの見直しを図るとともに、受講者が職場で行う研修の実施体制を強化します。

また、幅広い業務知識を身に着けるための独自教育として、短期間の特別教育の充実を図ります。さらに、知識・教育システムを活用し、各職場に積極的に教養資料を提供します。

○ 消防団員教育の充実

地域の防火防災の要となる消防団員の教育では、各種教育訓練を通じて、地域実情に適合した市民指導能力の向上を目指すとともに、水災への対応や地震等の大規模災害に備えた教育訓練を実施していきます。特に今年度は、近い将来発生が予想されている大地震や近年多発する水災などにおける消防団活動の重要性を踏まえ、消防団が大規模災害時に活動する際の指揮能力の向上と安全管理の徹底が図れるよう、幹部教育に「大規模災害指揮教育」を新設し、取り組んでまいります。

○ 職務研究の推進

個人が捉えた小さな発想の芽を見逃さないようにするため、サポートする側が既存概念を打破していきます。そして、その芽を育てて論考し、検証し、作文し、発表を行う過程で、しっかりとチーム形成できるようなサポートを研究所属とともに実施します。また、研究成果を実用化していく過程に力点を置き、積極的に検証していきます。

本年度は、重点テーマに防火防止対策に関する研究を掲げました。予防部と連携を密にし、全職員とともに新しい発見に挑戦します。

○ 鑑識能力の向上へ

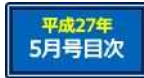
少人数制の研修会や消防署が行う鑑識に対する研究課の技術支援を通じて、理解を一つ一つ積み上げながら出火原因に迫っていく、「過程を重視した教育」を行います。

また、合同で鑑識、再現実験等を行うことにより、火災原因を追究し、職員の鑑識能力の底上げを図ります。

消防音楽隊

○ 市民に愛され親しまれる音楽隊

消防音楽隊発足60周年, 消防カラーガード隊発足30周年の節目の年を迎え, 市民の皆様に対し, これまでの活動への理解と協力を謝意を表すため, 年間を通じて記念事業を展開するとともに, 音楽を用いた市民指導の手法に創意工夫を重ね, 「防火ふれあいコンサート」や「みんなでコンサート」をはじめとする演奏機会を通じて, 更に分かりやすく親しみやすい防火・防災の普及啓発を行います。



お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#) 平成27年5月号 われらの消防団

平成27年5月号 われらの消防団

ページ番号181058

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



2015年4月30日

分 団 紹 介

わ れ ら

消

防

団

質

問



日夜、地域のために活動して
いただいている消防団。
このコーナーでは、11分団
長の横顔を紹介します。

- (1) 管轄区域の特徴は？
- (2) 我が分団を分析すると
- (3) 分団活動のモットーは？



査閲を通して絆を深める！**北 鷹峯分団**

分団長 川勝 正彦

- (1) 北方に北山山地，西方に鷹峯三山が連なり，町の中心を走る鷹峯街道には，史跡や名刹が多数存在し，かつての芸術・文化大拠点の面影を残す，趣のある学区です。
- (2) 総勢25名で構成されており，経験豊富なベテラン分団員から，体力自慢の若手分団員等多数所属する，バランスのとれたやる気あふれる分団です。
- (3) 「わが町を災害から守る」という熱い思いをベースとし「絆のネットワーク」を合言葉に，分団員同士や地域との絆を大切に活動することをモットーとしています。

地域の防火防災を支える！**上京 小川分団**

分団長 立花 滋男

- (1) 小川学区は，伝統ある西陣織の文化を引き継ぐ町家と学生向けマンションが混在する地域で，長い歴史と伝統，住民のふれあいを大切にする地域です。
- (2) 総勢19名で構成されています。フレッシュな新入団員も多く，分団長指揮の下，地域における防火防災の要として，全員が一致団結して消防団活動に取り組んでいます。
- (3) 地域に根付いた活動を心掛け，各種団体と連携を図り，学区民が安心安全を実感できるよう災害に強い町づくりに向け，信頼される消防団を目指しています。

わがまち修二を守るため！**左京 修学院第二分団**

分団長 野津 和雄

- (1) 比叡山から大文字にかけての山並が見渡せ，管内を縦断するように叡山電鉄が走り，激戦区日本一と称される一乗寺ラーメン街道を始めとする飲食店街があります。
- (2) 高齢の団員も多いですが，若い団員の入団もあり，地域の安心安全を守るという使命感に燃えた，活気を取り戻しつつある分団です。
- (3) 先手必勝，火災予防をモットーとし，高齢者も多く住んでいることから，地域に密着した顔の見える消防団活動を実践しています。

目指すは「さすが消防団」

中京 朱雀第六分団

分団長 山田 豊



- (1) 朱六学区は、JR 二条駅の北西に位置し、平安京の豊楽殿、朱雀門が築かれた地域です。狭あいな道路に木造住宅が建ち並んでおり、また少子高齢化が進む地域です。
- (2) 20代から70代までの男性団員総勢17名で構成されています。地域事情として、少子高齢化が進むなか、高齢者及び子ども宅からの出火防止を重視して活動しています。
- (3) 分団員全員が防火・防災、応急手当に関する知識や技術の習得を図り、災害発生時には「さすが消防団!」と言われ、頼りにしていただける消防団になることです。

地域防災の元気印

東山 今熊野分団

分団長 市川 宗臣



- (1) 今熊野学区は、古くから製陶が盛んで「清水焼」が有名です。地理的には坂道や狭隘な道が多く、高齢者の割合が高いのも特徴の一つです。
- (2) 女性2名を含む総勢15名で構成されており、若さと活気にあふれ、郷土愛護の精神の下、一丸となってあらゆることに取り組む結束力の強さが自慢です。
- (3) 地元の防災活動やお祭り等の、「人が集まる所に今熊野分団あり」と言われており、「何にでも情熱的、積極的に取り組み、全員で頑張ろう」をモットーに日々奮闘中です。

防火防災・安心安全な学区として

山科 西野分団

分団長 高木 学



- (1) 学区の南側を新幹線と五条通が通り、山科区の中程に位置する学区です。旧住宅と新興住宅、高層山科団地を併せ持つ、山科区内で最も新しい学区です。
- (2) 30代から60代まで、幅広い職種の総勢16名で構成されており、学区の各種団体と連携強化を図り活動しています。
「出すな火災」を合言葉に団員全員が使命感に燃えています。
- (3) 予防活動に力を注ぎ、防火防災・安心安全の学区を目指し、尽力しています。イザ出動となれば「一致団結・即行動」をモットーに、日々元気に活動しています。

THE NAGAMATU

下京 永松分団

分団長 村田 卓三



- (1) 高瀬川に沿って繁華街の四条河原町から五条通までを管轄しています。百貨店や物品販売店、飲食店が立ち並び、常に多くの人でにぎわっている地域です。
- (2) 総勢10名で構成されており、少人数の分団ですが、地域を守る意識は非常に高く、まさに地域防災の要となり、地元住民から高い信頼を得ています。
- (3) 地域の高齢化が進む中で、「安心安全のまちづくり」を目指し、地域の方々との連携を密にし、防火防災の意識を高めるよう努めています。

地域の防人として

南 南大内分団

分団長 速水 秀和



- (1) 世界遺産である東寺の西側に位置し、狭い道路と木造建物が密集した地域です。自主防災会を始め、学区民の防火・防災の意識が非常に高く、連帯感の強いまちです。
- (2) 総勢14名で構成されており、大きな分団ではありませんが、少数精鋭で強固なチームワークを原動力に、情熱とパワーに満ちた分団です。
- (3) 分団のモットーは、「消防団は心意気」で、地域の防人として、自分たちのまちは、自分たちが守るという使命感を持ち、活動に従事します。

花の歴史に刻む日々

右京 花園分団

分団長 田端 敏弘



- (1) 右京区の北東部に位置しています。その昔、百花が咲き乱れ、「花園」という名が付いたと言われており、毎年7月に開花する法金剛院の蓮の花にその歴史を感じます。
- (2) 総勢15名で構成されています。花園の歴史を物語る証言者の60代から、その引継役の30代まで、地元愛のもと、支え合い、結束する分団です。
- (3) いつの時代も地域と共に歩み続けて66年。分団活動を通して、「今後100年、200年(目標高く)未来につながる防火防災」を胸に刻み、これからも進みます。

地域の命とくらしを守る！！

西京 桂分団

分団長 前田 興



- (1) 桂学区は、阪急桂駅の西側に位置する閑静な住宅地ですが、田畑も点在し、鯉などの魚が泳ぐ用水路等もあり、人も街も穏やかで優しい、火災の少ない地域です。
- (2) 総勢15名で構成されており、うち女性団員は3名です。全員が地元愛に溢れ、個性豊かで、楽器演奏等の特技を防火啓もうに生かすなど、やる気に満ち溢れたすばらしい分団です。
- (3) 実戦に則した放水訓練や、年2回普通救命講習を主催するなど、「地域のくらしと命を守る」をモットーに、自主防災会と連携し、地域に溶け込んだ活動をしています。

災害に強い地域を目指して

伏見 深草分団

分団長 辻 雅樹



- (1) 深草学区は、伏見区の北部に位置し、区内で最も人口の多い学区です。師団街道や第一軍道といった旧軍隊に関連した珍しい名前の通りがあり、現在でも地域の主要道路となっています。
- (2) 昭和23年に結成され、現在は20代から60代までの地元愛に溢れるメンバー総勢13名で構成し、一致団結して地域の防火防災に取り組んでおり、頼れる分団を自負しています。
- (3) 各種団体と連携を密にし、学区内でスクラムを組んで「災害に強い地域づくり」を目指して、防火防災リーダーとして積極的に、そして力強く消防団活動を行っています。

平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

平成27年5月号 企画課News!

ページ番号181235

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

 ツイート シェア

2015年4月30日



企画課News!

平成26年度の職員提案の結果について

～ 業務改善に終わりなし!! ～

企画課

平成27年4月16日、京都御池創生館において、門川市長、杉本消防局長、その他の関係局長のほか、京都市新規採用職員約200名の前で、優秀提案発表会「トライ！京舞台」と表彰式が行われました。これは、平成26年度に提出された職員提案の中で、特に優秀と認められ、表彰を受けた提案の内容を発表する場として設けられたものです。

消防局からは、昨年度の2件を上回る4件の提案が市長賞を受賞することとなり、そのうち西京消防署の提案「平成25年台風18号における救助活動の技能伝承について」(発表者 消防司令 松浦 宏明)と伏見消防署の提案「過去のデータを有効活用した効果的な放火防止対策」(発表者 消防士 日高 敬介)の発表を行いました。(表彰提案一覧は下記及び添付ファイルを参照)

西京消防署の提案は、台風18号における水災害での救助活動(嵐山中ノ島での12名救助現場)の経験を、現場活動を行った職員だけでなく消防局全体の貴重な財産とするために、冊子やDVDとして記録したものです。

伏見消防署の提案は、伏見区内の放火火災件数が多いという事態を逆手に取り、放火に関するデータを多く集めることで、放火発生場所の環境に着目したデータの集約、分析を行い、類似環境にある世帯を指導対象の絞り込みを実施、効率的に指導を行うことで伏見区内の放火火災を減少につなげることができたというものです。

発表者は、写真やグラフを用いた分かりやすい説明と、消防吏員らしい活発な態度で出席者の注目を浴びていました。

職員提案制度は職員の創意工夫と意欲の高揚を促すとともに、市政各般の業務を改善し、市民サービス及び能率を向上させることを目的としており、制度の特徴として、消防局内の提案はもとより、京都市の他の行政機関への提案が可能であるという点があります。

職員の皆さんは、消防局内の業務改善を行うとともに、常日頃から広く市政にアンテナを張り、京都市の行政全体の業務改善につながるための積極的な提案を行い、市民サービスの向上を目指しましょう。

平成26年度職員提案制度 優秀提案発表会「トライ!京舞台」及び表彰式

平成27年4月16日 於:京都御池創生館



発表会の様子



左京消防署 (共同提案)



右京消防署 (共同提案)



西京消防署 (所属提案)



伏見消防署 (共同提案)



表彰者記念撮影

消防局の提案選考結果

提 案 件 名	提 案 者	区 分
琵琶湖疏水クルーズの実施に向けた安全対策の構築について	左京消防署 (共同提案) 代表者 廣澤 基喜	市長賞
過去のデータを有効活用した効果的な放火防止対策	伏見消防署 (共同提案) 警防課第三部第1消防隊	
簡易的な体験型の水災害対応訓練について	右京消防署 (共同提案) 代表者 水野 寛久	
平成25年台風18号における救助活動の技能伝承について	西京消防署 (所属提案)	優秀賞
京都第一赤十字病院との連携による応急手当普及啓発活動の実施	東山消防署 (所属提案)	
「危険物施設等の申請・届出マニュアル」の作成及び配付	下京消防署 (所属提案)	優良
防火アドバイザー研修の実施内容等の見直しについて	安全救急部市民安全課 (所属提案)	
配食サービス事業者との提携した高齢者防火安全指導の実施	中京消防署 (所属提案)	

新配置職員に対する「研修・教育日誌」の実施 ～直属上司との交換日記形式～	南消防署 (所属提案)	賞
各種届出書受理要領の作成	北消防署 (所属提案)	
山岳地域における災害活動資料のデータベース化について	村松 健一 (単独提案)	入 賞
屋内における消火器訓練について	山下 裕平 (単独提案)	
相談・指導記録の電子化及び検索システムの構築	下京消防署 (所属提案)	
京町家等を活用した簡易宿泊所の開設に係る受付相談業務の円滑化について	上京消防署(共同提案) 代表者 竹内 佑介	
京都市消防局フェイスブックにおける職員及び部隊を紹介する連載企画について	総務部庶務課 (所属提案)	
消防局ホームページ内の消防職員採用ページのリニューアル	総務部人事課(共同提案) 代表者 松尾 拓也	
独自ビラを活用した住宅用火災警報器の設置、是正指導手法の確立	中京消防署 (所属提案)	
公用車両の運転者に対する運転免許証確認制度	山科消防署 (所属提案)	

消防局の提案選考結果(きょうかん部門)

きょうかんプロジェクト名	提案所属	選考会の結果
定時に帰りま“6(シックス)”プロジェクト	総務部人事課	“きょうかん”賞
kakineを超えてプロジェクト	消防学校教養課	
節約意識継続計画～ええ古都(こと)左京～プロジェクト	左京消防署	
全署員一丸となった無駄削減プロジェクト	右京消防署	
接遇グッドプロジェクトⅡ	西京消防署	
コミュニケーションスキルアッププロジェクト	伏見消防署	

平成26年度 職員提案表彰選考結果

 [平成26年度 職員提案表彰選考結果\(PDF形式、190.27KB\)](#)



PDFファイルの閲覧には Adobe Reader が必要です。同ソフトがインストールされていない場合には、[Adobe 社のサイトから Adobe Reader をダウンロード\(無償\)してください。](#)

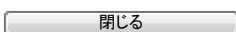


お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
 電話:075-682-0119
 ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)



平成27年5月号 消防活動へのとびら1

ページ番号181238

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます [ツイート](#) [シェア](#) 2015年4月30日

本部指揮救助隊(スーパーコマンドレスキューチーム)は、災害活動を総合的に指揮する本部指揮隊(スーパーコマンド)と、最新の救助資器材で高度な救助活動を行う本部救助隊(スーパーレスキュー)で構成された消防局本部直轄の部隊として、平成17年4月に発足し、今年で10年目となります。本部指揮救助隊は、平成18年4月に改正された救助隊の編成、装備及び配置の基準を定める省令で特別高度救助隊に位置付けられています。

本部指揮救助隊は、建物火災等の通常災害、大規模災害、NBC災害等の特殊災害、高度資器材を必要とする特殊性・困難性のある災害活動のほか、署指揮隊の指揮支援及び活動部隊の活動評価や監察を実施します。

本部指揮救助隊は、高度な知識・技術を習得し、専門的な資格及び教育を受けた隊員で構成し、その隊員が特殊な器材と車両を活用し、特別高度救助隊として活動を実施します。

本部指揮救助隊が運用する車両及び機能等について3回に分けて紹介をしていきます。

**◆◆ 災害現場指揮支援車 ◆◆◆****(1) 運用等**

大規模災害、特殊災害等の発生時においては、他の関係機関と情報を共有し、活動の調整等を行う現地対策本部等が設置されます。災害現場指揮支援車は、現地対策本部、現場指揮本部等として運用することを目的として導入しました。車両は、拡幅展開する構造で、かつ、情報の管理・記録・発信等ができる機能を有しており、約5分で車両を拡幅展開し、設定が完了できます。その他には、集団救急事故等の傷病者が多数発生している災害での一時的な応急救護所として、また、活動が長時間となる場合の活動隊員の一時的な休憩場所としても活用することができます。

日常は、本部指揮救助隊が市内の通常災害の出動車両として運用しています。

(2) 主な車両装備**【拡幅装置】**

拡幅時全幅寸法 3,875mm(オーニングテントを除く。)車体運転席側を拡幅展開することにより、車内の活動スペースを増床することができます。拡幅時は、最大10名の収容が可能となります。

【オーニングテント】

リモコン操作により、車両助手席側にサイドテントを張り出すことが可能で、テント室として使用することもできます。

【ヘリテレ簡易受信装置】

航空隊がヘリコプターから撮影した映像をアナログ波で受信し、車載のモニター等に映すことができ、半径3km、高度300mまでの受信が可能です。

災害現場指揮支援車



◆◆ 陽圧特殊災害対策車 ◆◆◆

(1) 運用等

NBC災害、毒劇物、テロ災害等の特殊災害現場に対応する資器材を車載しており、平常時は、市内における特殊災害現場等に活用します。

また、全国で大規模災害が発生した際には、緊急消防援助隊として出動する車両として登録しています。

陽圧特殊災害対策車



(2) 主な車両装備について

【分析室】

車内に設置された分析室を陽圧にし、外気に触れることなく有毒物質の同定作業を実施することができます。

【陽圧式浄化装置】

分析室内を陽圧にする装置で、外気との気圧差を600paまで上昇させ陽圧環境を作り出すことができます。外気を取り込む際には、有毒物質を除去するフィルターを通しており、分析室内には無毒化した空気が供給されます。

【陽圧空気マスク】

運転席及び助手席には、分析(陽圧)室から送られてくる空気を吸うことが可能な面体が備え付けてあり、呼吸管理を行うことができます。

【超音波風向風速計】

車両屋根部分に設置された3つの超音波センサーにより、風向及び風速を計測し、有害な物質等の拡散状況等を把握します。

【温度・湿度計】

超音波風向風速計と同じく屋根上に設置され、温度及び湿度を測定します。



平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
電話:075-682-0119
ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

平成27年5月号 消防活動へのとびら2

ページ番号181251

 ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます
 [ツイート](#)
[シェア](#)
 2015年4月30日


国際緊急援助隊救助チーム(以下「JDR救助チーム」という。)は、平成27年3月3日から同年3月5日未明まで、兵庫県広域防災センターにおいて、各国の救助チームの能力を評価するIER(INSARAG External Re-Classification 国連による外部再評価)を受検し、平成22年のIEC(INSARAG External Classification 国連による外部評価)に引き続いて最高分類である「重(Heavy)」の認定を受けました。

IER受検は、国際捜索救助諮問グループ(以下「INSARAG」という。)から選出される評価員で構成された評価チーム(以下「評価チーム」という。)が、文書資料(チームの構成、装備、訓練内容及び出動体制)、プレゼンテーション、ヒヤリング及び連続36時間以上の演習訓練(状況により想定が変更するシナリオに基づくもの。)等により評価されるもので、5年ごとの認定更新が求められています。

今回のIER受検では、外務省、総務省消防庁、警察庁、海上保安庁、国際協力機構及び国際協力機構に登録する医療班並びに構造評価専門家によって構成されるJDR救助チーム(計70名)が受検に挑み、評価チームがマネージメント、ロジスティックス、メディカル、サーチ及びレスキューの各分野についての評価を行いました。

また、当局からIER受検の指導員として職員2名が参加しており、IER本番までの約1年間、IER受検事前訓練等において技術指導等を行いました。

受検内容

演習訓練は、仮想国においてM7.5の地震により、都市部に大きな被害が発生し、多数の負傷者が発生しており、JDR救助チームが仮想国政府の要請に基づき派遣される想定で訓練が開始されました。各省庁等の派遣隊員が仮想成田空港(JICA関西)に参集するところからスタートし、空港でのメディカルチェック及びJDR救助チーム結団式等の出国から仮想航空機による移動(機内でのブリーフィング等)後の被災国空港での入国(入国審査、被災国関係者との活動調整等)までの派遣訓練が行われました。

次にJDR救助チームは、仮想被災国から要請があった活動地域へ移動し、JDR救助チームのBoO(指揮本部、資器材置場所、休憩テント等で構成されるベースキャンプ)の立ち上げ、OSOCC(現地活動調整センター)の設定等が行われ、その後、OSOCC会議で救助要請のあった活動サイトでの昼夜に及ぶ救助活動に展開していきました。

活動サイト(全6サイト)は、INSARAGチェックリスト(評価項目)が求めている救助項目等(捜索活動、ブリーチングの種類、重機ムービング、医療措置等)が組み込まれた想定訓練となっており、地震によるビルの倒壊等で挟まれ、下敷き、閉じ込められた複数の要救助者が設定され、ヘイリング(隊員による声掛け)、救助犬及び救助資器材を用いた捜索活動、ショアリング(建物安定化技術)、ブリーチング(コンクリート壁等の破壊技術)、CSRM(医療行為を伴う狭あい閉鎖空間救助)、ロープレスキュー等の救助技術を駆使して要救助者を救出する訓練が実施されました。

結団式



(写真提供: JICA)

入国審査(検疫)



(写真提供: JICA)

B o O用地



(写真提供: J I C A)

サイトA (上方ブリーチング)



(写真提供: J I C A)

サイトB (梁破壊)



(写真提供: J I C A)

サイトC (ロープレスキュー)



(写真提供: J I C A)

サイトD (ショアリング)



(写真提供: J I C A)

サイトE (クリビング)



(写真提供: J I C A)

サイトF (ショアリング)



(写真提供: J I C A)

認定式

受検の結果は、兵庫県消防学校内のホールに全関係者が一堂に集められ、評価チームリーダーからIER全体の講評と併せてJDR救助チームに「重(Heavy)」を認定することが発表されました。

結果内容は、INSARAGチェックリスト(評価項目)136項目のうち、132項目にグリーン(基準を満たす又は超える)、4項目においてイエロー(基準を満たすものの改善が必要)、レッド(基準に満たない)は0項目となり、最高分類の「重(Heavy)」が認定された証しである「認定証」が評価チームリーダーからJDR救助チーム団長に手交され、会場は拍手喝采で盛り上がりました。



(写真提供: JICA)

I R T救助チーム解団式

JDR救助チームの認定式終了後、IER受検に向け平成26年5月から結団されていた国際消防救助隊IER受検チーム(副団長1名、中隊長1名、中隊長サポート1名、小隊長2名、隊員12名、予備隊員1名及び指導員13名 計31名)の解団式が行われました。

解団式には、総務省消防庁から国民保護・防災部の参事官代理で国際協力官、全国消防長会事務局次長のほか、当局からも岡口警防部長が来賓として招かれました。



(写真提供: 神戸市消防局)

最後に

JDR救助チームが「重(Heavy)」認定を受けたことで、海外で大規模災害が発生し、最も早く被災国入りしたときは、世界各国の救助チームのリーダーとして、次々と到着する救助チームをマネジメントコントロールする立場となります。

また、救助活動では、より生存救出の可能性が見込まれる活動サイト、困難性の高い活動サイト、長時間における持続性が必要となる活動サイトが割り振られることとなり、被災国からもより多くの要救助者の生存救出、高度な医療を含めた人道支援が求められ、その要求に的確かつ迅速に対応できなければなりません。

このため、日常から世界各国で発生している災害に目を向け、関係省庁との連携を図ることはもちろんのこと、INSARAGガイドラインに沿った手法による救助技術の取得、習熟、日々発展する救助技術の情報収集等、「重(Heavy)」認定国の一員として活動していかなければなりません。

このIER受検に当局から職員2名が参加できたことは、非常に有意義なものであり、IER受検を通じて培った知識及び技術、更には要救助者への愛護精神、過酷な現場で目標を達成するための精神力と体力が必要となることから当局の登録隊員にしっかりとフィードバックし、日本国内外の災害に備えてまいります。

平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2015 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
平成27年5月号 わが社の防火防災自慢

平成27年5月号 わが社の防火防災自慢


ページ番号181239

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます [ツイート](#) [シェア](#) 2015年4月30日

わが社の防火防災自慢

いかに人命と財産を守るか・いかに顧客への責任を果たすか

株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズ
エリアサポート部 升崎 隆史 氏



SCREENグループの紹介

当社は、持株会社である株式会社SCREENホールディングスの子会社で、シェアードサービス業務を担っています。株式会社SCREENホールディングスは、1943年に設立された大日本スクリーン製造株式会社の持株会社化を機に、2014年に現在の商号に変更しました。半導体洗浄装置やCTP装置、液晶パネル製造装置など多くの世界トップ製品を持つ事業会社をはじめ、国内外に展開する47のグループ会社を統括しており、また表面処理技術、直接描画技術、画像処理技術といったコア技術をベースに、4つの新規事業(エネルギー、検査・計測、ライフサイエンス、プリントドエレクトロニクス)の事業化を積極的に展開しています。

災害時の初期活動

◆ 防災訓練

火災等の災害が発生した際は、自衛消防隊が、人命第一に会社財産などの損失を防止すべく活動を行います。日頃よりリスクを意識し、いざという時の役割を自覚するために、毎年1回防災訓練を実施しています。最近の2年間は、上京消防署と合同訓練を行っており、自衛消防隊の災害対応力の向上、社員の防災に対する意識向上が図れ、大変有意義な訓練となりました。

◆ 普通救命講習

毎年、上京消防署に講師をお願いし、社員向けと新入社員向けの普通救命講習を開催しています。新入社員向けの講習は、昨年初めて実施したのですが、好評でしたので、新入社員研修の一つとして定例化することにしました。



合同消防訓練



新入社員対象の普通救命講習

事業継続マネジメント (BCM)

4年前の東日本大震災時、東北地方にあるグループ会社が被災し、生産設備がダメージを受け、また東京の事務所では帰宅難民となるなどの事態が発生したことを踏まえ、当社グループは、事業継続マネジメント(BCM)を構築しました。BCMと

は、事業活動を阻害する地震や風水害等の自然災害や感染症等の発生時に損失を最小にとどめ、事業継続または早期再開を図るために、日頃から備えておく計画のことで。

◆ 事業継続に関わる方針(BCM方針)

- ・ 従業員とその家族の安全を最優先する
- ・ 顧客への製品とサービスの供給責任を果たす

◆ 具体的施策

大規模災害発生時は、本社災害対策本部、現地対策本部を設置します。本社災害対策本部は、本部長の下、事務局、人事、施設設備、緊急物資、IT、資金、広報IRの各チームで構成され、現地への支援、インフラの復旧を行います。現地対策本部は、被害状況の確認、安否確認、救援救護、二次災害防止、生活復旧支援の順に活動します。大規模災害が発生したと想定した初動対応合同模擬演習を定期的に行い、対策本部間の役割分担と連携方法の確認、改善ポイントを抽出し、精度アップを図っています。更にスパイラルアップするためには演習の実施が不可欠で、昨年からは演習トレーナーを養成しています。余談ですが、私もトレーナー養成教育を受け、演習トレーナーの資格を取得しました。今後、演習トレーナーとして活動していきたいと思っています。

その他の施策としては、緊急用備品の配備、太陽光パネルの設置、緊急用衛星電話通信の設置、安否サポートシステムの導入、大規模災害時の基礎知識が記載されたサバイバルカードの配布、社員に対する「地震に備えた基礎教育」の指導を行っています。



初動対応合同模擬演習 現地対策本部

— 実際に起こったときの雰囲気近づけるため、照明を落とし
て演習を行いました —



防災倉庫

最後に

南海トラフと呼ばれる海域で30年以内に巨大地震が発生する確率が高いと言われており、また最近では、御嶽山噴火、長野県地震が発生し、改めて日本が地震大国であることを思い起こされました。備えに100%はありませんが、少しでも近づけるよう、今後も起こりうる災害を想定した訓練、演習を計画し、消防署、地域の皆様と連携して、災害の防止と被害の軽減に取り組んで参りたいと思います。

最後になりましたが、私ども市民の安全安心確保のために不断の努力を続ける消防機関の皆様に敬意を表します。引き続きのご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課
電話:075-682-0119
ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2015 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる



京都市消防局

KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT

現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) [Web「京都消防」平成27年5月号](#)
平成27年5月号 担当区ぐグット紹介

平成27年5月号 担当区ぐグット紹介

ページ番号181246

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

[ツイート](#) [シェア](#)

2015年4月30日



学区の紹介

月輪学区は東山区の南端に位置し、文化財、病院、商店街など、職と住が共存したまちが学区内全域に広がっています。大きな施設としては、全国的にも有名な臨濟宗大本山東福寺などの寺院や、京都府の基幹災害拠点病院として認定されている京都第一赤十字病院があります。

学区内の中央には東福寺があり、1236年に創建され、多くの国宝及び重要文化財を有し、また、仏殿から常楽庵に至る深谷・洗玉潤に架けられた橋廊の通天橋から見る景色はとてもきれいで、秋の紅葉シーズンの時期を中心に国内外からも大勢の観光客が訪れます。

主要道路は、東から南北に、東大路通、本町通、師団街道の順に、北から東西に、九条通、十条通の順に通り、主要道路以外は幅員が狭い道路が多く、観光シーズンには交通量が増加します。

公共交通機関にあつては主要道路に複数の路線バスが乗入れ、JR東福寺駅及び京阪東福寺駅があり、1日の利用客数は、約15,000人に上ります。

自主防災会の紹介

月輪学区自主防災会は、8ブロック37自主防災部からなる組織で、樋口自主防災会長を中心に10名の役員とともに、自治連合評議会をはじめ、月輪消防分団などの各種団体と連携を図り、日頃から積極的な防火防災活動を推進し、学区民の防火防災意識の高揚に努めています。

特に、震災等の大規模災害に備え、学区内にある事業所の中で、社会福祉法人洛東園、三洋化成株式会社京都工場、医療法人社団育生会久野病院と地域協定を締結し、災害発生時の協力体制を構築しています。中でも、社会福祉法人洛東園とは、平成16年の協定締結後、毎年同施設において、避難訓練や消火訓練、負傷者の搬送訓練等を合同で実施するなど、震災等の緊急時における地域と事業所のつながりを普段から深めるための活動を実施しています。

3月に行われた月輪学区総合防災訓練では、地域のつながりと絆をモットーに、各家庭とブロック単位による初動措置訓練と地域での集合場所及び避難所での情報収集訓練を実施し、月輪小学校のグラウンドと体育館においては、京都大学や京都女子大学等の協力の下、様々な訓練を実施しました。

そして、訓練の最後には、恒例のぜんざいが参加者全員に振る舞われ、また一つ地域の絆が深まりました。



民生委員・月輪消防分団員の防火安全指導

消防分団の紹介

月輪消防分団は、石川分団長以下17名(うち女性分団員3名)で構成され、学区内の防火・防災の要として、年間を通して様々な行事や災害に全団員が一丸となり、「愛するわがまちは、自分たちで守る」学区民のために一生懸命活動しています。

独自の取組の一つとして、毎年寒い時期に、民生委員の方々と共に、独居高齢者宅を訪問しています。

この訪問では、ベテランの女性分団員が、女性ならではの視点で一人暮らしの高齢者に接し、親しみを持ったなかで火気の取扱いについて指導を行っています。

このような精力的な活動が功を奏して、昨年は、学区内の無火災を実現しました。

月輪消防分団は、今後も災害のないまちづくりを継続させるために、学区における防火防災のリーダーとして頑張っていく所存です。



月輪消防分団による消火器取扱訓練の指導

終わりに

月輪学区は、高齢者が多い東山区の中でも、特に高齢化率が高く、4世帯に1世帯が高齢者の世帯となっています。

これからも、災害から高齢者を守るため、地道な啓発活動を大切にし、自主防災会、消防分団、消防署が一丸となり月輪学区民のため、なお一層防火・防災に取り組んでいきます。

平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2015 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる

平成27年5月号 ザ☆救急

ページ番号181245

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます [ツイート](#) [シェア](#) 2015年4月30日

年度末に差し掛かり、そろそろ人事異動かな？と溜まった事務を処理していたとき、担当課長から、「異動がなければ、京都消防のザ☆救急の記事を書いてくれへんか？」と依頼されました。私は京都消防の中でも特にこのコーナーとあの日あの頃が好きで、いつも楽しみにしています。でもまさか、自分に順番が回ってくるとは思いもせず、戸惑っていると、「救急でいろいろ経験したやろ」と言われ、これまでを振り返ってみました。

心肺停止からの蘇生という救急隊員として冥利に尽きる事案から汚物を投げつけられたやせない事案まで印象に残る現場は数多くありますが、今回紹介させていただくのは、命の危険を感じた事案です。

秋も深まりつつあった11月の深夜のことでした。救急出動から帰隊し、3人でコーヒーを飲みながら一息ついていた時です。救急指令が入り、「〇歳男性、薬物多量服用、警察官同時指令」との状況を受信しました。薬物多量服用はめずらしい事案ではありませんでしたが、その日はなんとなく嫌な予感がしました。

現場はマンションの一室で、大柄な男性が室内の床に仰臥位でいました。目は閉じたまま、こちらの問いかけに答えることなく、要領を得ないことをつぶやいていました。隊長が男性の妻から状況を聴取し、私ともう1名の隊員でバイタルサインの測定を行いました。指令センターに病院選定を依頼し、車内収容の準備を始めたところ、男性は突然覚醒し、起き上がりました。そして「お前ら、いてまうぞ！」と威嚇行為を始めました。落ち着かせようとなだめましたが、男性は興奮状態です。

救護活動の継続が不可能と判断した隊長が屋外への退避を下命したと同時に、男性が「お前らの人生終わらせてやる！」と叫びながら、玄関に向かい走り出しました。間髪入れず妻がそれを追いかけて行きました。私たちはあつけにとられ、立ち尽くしていましたが、玄関に目をやると、男性と妻の2人がもみ合っていました。「こいつらやったる！渡せ！」「あんた、それだけはアカン！」と怒号が飛びかかっており、よく見ると日本刀を取り合っているではありませんか！私達は数メートル離れた台所からやり取りを見ていましたが、退路を塞がれた状態で、その場を動くことができませんでした。3名それぞれが盾の代わりにと、台所の椅子を握りしめていたのが印象に残っています。

隊長が指令センターに、危険が切迫していること、警察官が未着であることを伝え、指揮隊を要請しました。そうしている間に妻が日本刀を取り上げ、屋外に逃げました。

しかしホッとしたのもつかの間、男性は、下駄箱などの家財道具を手当たり次第こちらに投げつけてきました。そこでやっと警察官2名が到着しました。助かった、あとは任せようと思いきや、止めに入った警察官が殴る蹴る、傘で突かれると暴行を受け始めました。もう1名の警察官は無線で応援を呼ぶと言いつつ屋外に出て行きました。格闘中の警察官は背負い投げをされ、仰向けの状態で床に倒されました。男性は、その警察官の顔面を目掛け、重量感のある金属製の健康器具を両手に取り、大きく振りかぶりました。

「危ない！」

私たちは3人で飛び掛かり、暴れる男性を抑えつけました。そこでタイミングよく？もう1名の警察官が戻ってきて、手錠を掛け、逮捕に至りました。

管轄警察署での事情聴取の際、日本刀は模造刀であったことを聞かされましたが、現場で感じた恐怖は、私の拙い文章力では表現できません。

その後、この事案を検討してみました。遭遇・対応も問題なく(事案内容から普段以上に気を遣っていました)、人生を終わらせられるような落度は、全く思い付きませんでした。

細心の注意を払っていても、常に危険が潜んでいることを肝に銘じ、緊張感を持って現場活動に臨むべきであることを改めて認識しました。



▲筆者中央

平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2015 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる

平成27年5月号 あの日あの頃

ページ番号181248

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

[ツイート](#) [シェア](#)

2015年4月30日

あの日あの頃

昭和の救助隊

伏見消防署 宮島 吉章



昭和54年4月2日消防学校に入校し、半年間の初任科教育を受けました。

午前中は座学の授業があり、午後は消防訓練・救助訓練及び消防体育で、同期生が52名いましたので、消防訓練と救助訓練については26名が1チームとなり、2日に分けて交互に3時間実施されていました。

消防学校入校当時、消防の仕事は消火活動が主な仕事で、他のことについては、全くと言っていいほど知りませんでした。

半年間の初任科教育が終了し、南消防署に配属になったときには、救助隊にあこがれていました。しかし、南部救助隊の隊員から救助資器材の取扱説明を受けていると、テキパキといかにも「自分たちは、これらの機材を使いこなし、人命救助に従事しているんや。」という自信と行動が、私にはとんでもない人たちがいる部隊に見えました。どう考えてみても南部救助隊を希望するような状況ではありませんでした。その1年後には、南部救助隊員を命じられ、救助隊の一員になりました。そこから消防人生の原点となるべき数々の現場活動が始まりました。

消防救助隊の最初は

京都消防の救助隊は、昭和37年10月に北・中京・南各消防署に北部救助・中部救助・南部救助の専任救助分隊3隊が配置されました。

日本の消防救助隊は、1950年(昭和25年)代から一部地域で編成され始め、昭和40年に横浜市消防局が特別救助隊(横浜レンジャー)、昭和45年に東京消防庁が特別救助隊(レスキュー隊)を設置したのに合わせて全国の消防が設置を始めました。

法的には

昭和61年4月の消防法改正により救助隊が法的(消防法第36条の2)に位置付けられ、更にこれを受けて同年10月に救助隊の編成、装備及び配置の基準を定める省令(昭和61年10月1日自治省令第22号。以下「省令」という。)が公布(昭和62年1月1日施行)されたことに伴い、同省令に基づき市町村が配置する人命救助を行うため必要な特別の救助器具を装備した消防隊を救助隊としています。

消防組織法第4条第2項第16号(昭和61年4月)に、国が行う事務を規定しているものであり、「人命の救助に係る活動の基準に関する事項」は「救助活動に関する基準」として昭和62年9月21日に消防庁告示として出されています。

つまり、昭和61年4月(消防法改正)までは、救助隊の法的な位置付けはなく、消防本部が救助隊と名前を付けていただけで、法的には「消防隊」でした。

現場活動

南部救助隊には、3年間に在籍していました。その間、新聞に掲載された火災及び救助事故で、私が出動したものだけでも名神高速道路での交通事故が4件、水難救助が2件、火災が5件ありました。昭和57年7月の早期に発生した名神高速道路上での4トラックと2トラックの追突事故では、輸送中の蜜蜂300万匹のうち、約200万匹が巣箱から逃げ出て空が黒くなっているなか、横転したトラックの運転手1名を早期に救出した事故がありました。現場を離れた後、事故処理などの作業に当たった警察官、公団職員と付近住民など十数名が蜂に刺され、名神高速道路が3時間にわたり通行止めになったそうです。

その他にも、当時の救助隊は、炎上火災では救助隊2隊が出動していましたので、京都市内(当時の火災件数年間220件前後)の3分の2の火災現場に出動し、建物の内部検索活動では、いつも防火衣がドロドロになっていたのが思い出されます。

そのときの現場経験が、現在にも生かされていると自負しています。

『終わりに』

3人の息子がいますが、長男以外は他の消防本部に就職し、全国消防救助大会にも出場するようになりました。「親の背中を見て育ってくれたのかなって。」と、いいように思っています。

ある日、長男の子供に「叔父さんもお祖父ちゃんも消防士やのに、どうしてパパは消防士じゃないの？」って言うような会話ができるようになりました。



昭和57年
筆者
右端



筆者
前列

平成27年
5月号目次

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)



現在位置: [トップページ](#) [安心・安全情報](#) [Web「京都消防」](#) Web京都消防5月号一括記事

Web京都消防5月号一括記事

ページ番号181255

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



2015年4月30日

Web京都消防5月号記事一括ダウンロード

 [Web京都消防5月号Webアルバム\(PDF形式, 1.35MB\)](#)

 [Web京都消防5月号記事\(PDF形式, 3.65MB\)](#)



PDFファイルの閲覧には Adobe Reader が必要です。同ソフトがインストールされていない場合には、[Adobe 社のサイトから Adobe Reader をダウンロード\(無償\)](#)してください。

お問い合わせ先

京都市 消防局消防学校教養課

電話:075-682-0119

ファックス:075-671-1195

区役所ホームページ

[北区](#) [上京区](#) [左京区](#) [中京区](#) [東山区](#) [山科区](#) [下京区](#) [南区](#) [右京区](#) [西京区](#) [伏見区](#)

(c) 2015 City of Kyoto. All rights reserved.

閉じる